

大地のかけら

滝沢 具幸

石は大地の骨であるという。地上を支え、木々を育み霧や雲を生む根源であるという。石はまた、その生成から、さまざまな質と形を持ち、風や雨に晒されて、それぞれ趣のある表情と変化に富んだ様子に満ちている。幾千万もの天竜川原の大小の石の姿・形は、そのひとつひとつ違った魅力があり見飽きることがない。

山歩きをしていると時々美しい岩壁や岩相に出会い、その節理の見事に驚かされることがある。柱状節理や、褶曲構造などでよく知られている場所だけでなく、身近な場所にも大地がその

生成のメッセージを示している所があちこちにある。最近、南アルプス甲斐駒ヶ岳への登山の折に見た岩塊斜面は不定形な大石がごろごろ果々と積み重なっている様が、私の好みの形態羅列という造形意識をくすぐるものであった。その不思議な状態が生まれる要因に興味がわく。美博でも、中央アルプスや南アルプスの地質の調査・研究を進めているので楽しみである。

以前、学生と自然の石から絵具を造る実験をしたことがあった。川原や溪谷、山を歩いて美しい石を採集して、それを粉碎して顔料にするのである。地上で見つかる石は倍赭色や、

黒色、黄土や白が多い。普段日本画などで使われている群青（藍銅鉱）や緑青（孔雀石）などの美しい色とはほど遠いが、それは大地から生まれた穏やかな親しみ深い自然の色相なのである。古代人が岩肌や土器に文様や動物を描くため彩色に用いたと同じ素朴な素材である。

今、天竜川原に立ち、石という大地の欠片を手に持ちながら、壮大な地球のロマンを感じるのである。

2008 VOL. 079

テラス

◎飯田市美術博物館ニュース◎

IIDA CITY MUSEUM NEWS "TERRACE" VOL.079
 発行：飯田市美術博物館
<http://www.iida-museum.org/>

テラス 2008 VOL. 079

◎発行日/2008年05月01日 ◎印刷/杉本印刷株式会社 ◎発行者/飯田市美術博物館 〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655-7 TEL 0265-22-8118 URL <http://www.iida-museum.org/>
 ◎2008 Iida City Museum ※本書を無断で複製・転載することを禁じます。

インフォメーション ⑤→⑦月

●美術博物館

お問い合わせ：0265-22-8118

◎企画展および特別陳列

- 田中芳男館蔵品展 6/7(土) → 7/21(日)
- 藤本四八写真文化賞受賞作品展 6/7(土) → 7/6(日)
- 新指定文化財・新館蔵品展 6/7(土) → 6/24(火)
- ハナノキ湿地の自然史 -赤き風のかなでる交響曲- 7/19(土) → 10/13(日)
- 信州喫茶事始 -お茶をめぐる文化誌- 7/25(金) → 8/31(日)

◎平常展示

- 菱田春草をめぐる画題のイメージ 第1回「端妍」 4/25(金) → 5/25(日)
- 現代日本画の創意 -大森運夫と人形- / -仲村進と大地- 4/25(金) → 5/25(日)
- 菱田春草をめぐる画題のイメージ 第2回「流麗」 6/28(土) → 7/27(日)

◎プラネタリウム

- 春の番組「春の星座とヘルクレスの冒険」 → → 6/8(日)
- 夏の番組「ポケットモンスター -ダイヤモンド&パール-」 6/14(土) → 9/7(日)

◎講演会

- 田中芳男胸像除幕式・記念講演会 6/29(日) 13:30~
- 講演会「語れ神が現れる時」 6/8(日) 13:30~
講師：芳賀日出男氏
- 講演会「どうする!地域の人と自然」 7/5(土) 14:00~
講師：丸山直樹氏

◎美博特別講座『美』の創造と発見

- 第1回 仏教美術 講師：井上正氏 5/25(日) 13:30~
- 第2回 中世絵画 講師：中島純司氏 6/14(土) 13:30~

◎自然講座

- 地域から取り組む温暖化防止活動 5/15(木) 19:00~
講師：平沢和人氏
- ホテルの生活とホテルを取り巻く諸問題 6/12(木) 19:00~
講師：小林比佐雄氏
- 花崗岩のでき方 -累帯火成岩体- 6/19(木) 19:00~
講師：手塚慎人氏
- 大鹿村の地震の化石と断層岩類 7/3(木) 19:00~
講師：河本和朗氏

高山植物の暮らしぶり

講師：尾関雅章氏 7/11(金) 19:00~

◎美博文化講座

- 北と南の狩猟文化 -猪と熊を中心にして- 5/24(土) 13:30~
講師：野本寛一氏・赤羽正春氏
- 報告会「遠山谷南部の民俗」 6/22(日) 10:30~
- 日本の博物館の父 田中芳男に学ぶ 7/6(日) 13:30~

◎子ども博物館くらぶ

- 子ども美術学校 5/17(土)・6/14(土)・7/19(土) 13:00~
- 科学工作教室
- ・三極モーターを作って車を走らせよう 6/28(土) 10:00~
- 宇宙をのぞこう -親子で学ぶ天文講座-
- ・地球の年齢と星の一生 5/24(土) 15:00~
- ・流れ星を探る 7/12(土) 15:00~

◎星空観察会

春の星座と金星・水星 5/14(木) 18:30~

◆臨時休館日

5/27(火) - 6/4(木)

◎上郷考古博物館

お問い合わせ：0265-53-3755

- ◎きやまん工房 5/6(火) 9:30~
- ◎土器作り教室 7/5(土)・6(日) 9:30~

◆臨時休館日

6/3(火)

◎追手町小学校 化石標本室

お問い合わせ：美術博物館へ

- ◎公開日 5/4(日) - 6(火)・6/8(日)・22(日)
・7/20(日) - 21(月)・27(日) 10:00~16:00
- ◎化石クリーニング 5/5(月) 10:00~16:00
- ◎化石レプリカ作成 5/4(日)・5/6(火)・6/22(日) 10:00~16:00



開館20周年記念特別陳列

田中芳男館藏品展

— 日本の博物館の父 田中芳男の資料 — ① 6/7(土) → 7/21(月)

田中芳男(1838-1916)は、飯田出身の博物・物産学者、農政家です。この偉大な先人について本館では、平成11年に特別展「日本の博物館の父 田中芳男」を開催いたしました。芳男の生涯と業績の全体像に迫ろうという企画でしたが、芳男関係の館藏品は皆無に等しく、全国の博物館・大学図書館からの借用資料によって組み立てた展覧会でした。

しかしその後、芳男の次男五一の後裔や伊勢田中家から資料の寄贈を受け、また市場からも少しずつ購入して、ようやく故郷の博物館にふさわしい資料が蓄えられつつあります。今回の特別陳列では、それら館藏品を中心にして田中芳男の生涯と業績を紹介します。

主な出品資料は、芳男が企画制作した「教草」「神苑会農業館掛図会」「日本重要水産動物一覧」などの図解や、芳男がその開催に尽力した内国勸業博覧会などの錦絵、芳男の書・撮写図、著書、稿本、書簡、遺品などです。

なかでも「田中五一旧蔵資料」と一括して名付けた大量の寄贈資料の中には、自筆の「履歴年表」や「知己住所録」、さまざまな自筆の記録類など、他に二つとない貴重な資料が含まれます。植物

学者牧野富太郎が小学生の頃、芳男の作った「博物図」に魅了され、「博物図」に魅了され、のちに上京して芳男から教えを受けたことはよく知られた話ですが、富太郎が質問し芳男が答えた、両者の書簡(自筆控え)もあります。二人の関係がうかがい知られる絶好の資料です。

会期中の6月29日(日)には、市民有志「田中芳男の胸像制作等」を願う市民会議が昨年秋から募った浄財によって制作する

●関連・附属事業

- 開館20周年記念式典 / 6月29日(日) 午前10時30分～11時30分
- 田中芳男胸像除幕式 / 6月29日(日) 午後1時30分～2時
- 記念講演会 / 6月29日(日) 午後2時30分～4時30分
演題「国立科学博物館と田中芳男」—近代化に果たした役割と21世紀に向けて—
講師 鈴木一義氏(国立科学博物館主任研究官)
- 講座 / 7月6日(日) 午後1時30分～3時
演題「日本の博物館の父 田中芳男に学ぶ」
講師 本館学芸員



①「古今珍物集覧 元昌平坂聖堂に於いて」 明治5年(1872) 本館蔵



①「有用植物図説」 田中芳男 共編 明治24年(1891) 本館蔵

開館20周年記念事業

昭和63年10月に飯田市美術博物館が落成し、特別陳列「郷土の近代彫刻・工芸」・企画展示「児童生徒期の絵心」・企画展示「写真でみる飯田城から美博まで」・企画展示「雑木林」(昭和63年11月スタート)での一部公開が開催されて以来、平成20年の今年が開館20周年にあたります。

飯田市美術博物館は、総合館として、美術・人文・自然の各分野の特色を生かしながら、調査研究・収集保管・展示・教育普及を柱とした事業を進め、県内でも有数な博物館施設に成長してまいりました。これまでの博物館活動に、市民の皆様からあたたかいご支援をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

本年度は、開館20周年として、多くの事業を計画しています。6月29日(日)には、「開館20周年式典」と「田中芳男胸像除幕式」をおこないます。多くの市民の皆様からのご寄付により、実現した田中芳男胸像の完成を祝うとともに、20周年を記念して募集いたしましたシンボルマーク・ロゴマークの授賞式もおこないます。

11月2日(日)・3日(月)には、20年間の美術博物館での研究の成果を発表する「学芸祭—伊那谷の自然と文化—」も開催いたします。

また、開館20周年記念として、次のような展覧会も企画しています。(横村)

- 特別展 「江戸南画の潮流Ⅱ 文晁・華山の新感覚」 / 10月11日(土)～11月9日(日)
- 企画展 「ハナノキ湿地の自然史 —赤き楓のかなでる交響楽—」 / 7月19日(土)～10月13日(月)
- 企画展 「信州喫茶事始 —お茶をめぐる文化誌—」 / 7月25日(金)～8月31日(日)
- 特別陳列 「田中芳男館藏品展」 / 6月7日(土)～7月21日(月)
- 特別陳列 「伊那谷の仏教絵画 —浄土教と真宗の宝を集めて—」 / 9月6日(土)～10月5日(日)
- 特別陳列 「富草の化石 —近藤コレクションを中心に—」 / 10月25日(土)～2月15日(日)

胸像の除幕式を予定しています。美術博物館の庭に、「日本の博物館の父」の胸像が誕生するのです。これにあわせて、開館20周年記念式典と、記念講演会も開催されます。

本特別陳列も会期中通して観覧料無料とし、田中芳男について市民の方々に親しく学んでいただきたいと思います。

ぜひともご観覧ください。(桜井)

第6回 藤本四八写真文化賞 受賞作品展

② 6/7(土) → 7/6(日)

藤本四八写真文化賞は、平成9年に飯田市出身の写真家藤本四八を記念して創設されました。2年に一度の表彰をおこない、この度、第6回展の受賞作品が決まりました。

第6回展の審査は、さる3月5日に田沼武能(写真家)、福島義雄(写真編集者)、内山節(哲学者)、水谷章人(写真家)、伊澤宏爾(飯田市教育長)、滝沢具幸(当館館長)の6名の審査員により行われました。応募作品数は、

公募の部(一般)が49点、公募の部(小・中・高校生)が9点でした。近年に出版された優れた写真集の業績に対して、審査員の推薦により受賞が決定する写真文化賞推薦の部には、竹内敏信さんが選ばれました。竹内さんは、1943年、愛知県生まれ、「天地聲聞」(新日本企画・1985年)、『一本櫻百本』(出版芸術社・2006年)など数多くの写真集を発表し、

「日本の原風景」「日本のこころの風景」をとらえ、風景写真に新境地を開いたことが評価されました。公募の部(一般)の写真賞には、京都府在住の大橋紀雄さんの「僧貌」が選ばれました。

これは京都知恩院の僧侶の修行の姿を撮影した20点からなる組写真作品で、日常では知り得ない僧侶の世界を伝える力作として高い評価を受けました。市民奨励賞には、豊丘村在住の大原税子さんの「体温(ぬくもり)」が選ばれました。今回は組写真作品として応募された20点のうち、11点が受賞対象となりました。日常のさりげない光景の中に、記憶のぬくもりを感じさせる作品として評価を得ました。また、第6回展からはじめて募集した公募の部(小・中・高校生)では、松尾小学校4年生の三浦幸輝くんの「はじめての雪遊びだ“ワン”」と龍江小学校4年生の木下拓也くんの「雪の天龍峡」が選ばれました。受賞者の方々、おめでとうございます。

受賞作品作品展は、東京展を5月29日(木)～6月4日(水)の会期で東京都中央区銀座のキャノンギャラリー銀座で、飯田展を6月7日(土)～7月6日(日)の会期で飯田市美術博物館でおこないます(小学生の作品は飯田展のみの展示)。ぜひ会場に足をお運びいただき受賞作品をご鑑賞ください。(横村)



②北海道 更別村「厳冬の朝」 ©竹内敏信(J.P.S.)



②北海道 弟子屈町「霧氷の舞」 ©竹内敏信(J.P.S.)



②「僧貌」 大橋紀雄



②「体温(ぬくもり)」 大原税子



表紙の作品 / 仲村進「晩秋山河」平成6年(1994) 麻紙・膠彩 145.0×227.5cm 本館蔵

仲村進は、戦中期の満蒙開拓青少年義勇軍での開拓の経験などを通し、大地と農民の営みを見つめ続けた日本画家である。平成6年に日本橋高島屋と名古屋松坂屋で開催された「故里山河」の個展では、故郷の里山を中心とした風土に取材し、大地が秘める力と生命の関係を、深い山巒を濃密に描く作風で表現した。